

三原とともに5工場に属し現在分離し西日本重工業の三菱造船KK以外の唯一の造船所ということになるのである。以上説明を1時30分に終り次いで映画を鑑賞2時10分より工場見学にうつり約1時間造機工場船台、ドックの順に膨大なる設備を見学した。それから3時5分ふたたび応接間に戻り班員の質問に対し懇切なる御回答あり3時25分全てを終了し一同満足のうちに同所を辞しふたたびバスに打ちのり約1万人の働くマンモス工場造船所を後にして各自帰路の駅々え向つた。

(八幡製鉄名古屋事務所 北島哲男記)

### 姫路班

富士製鉄株式会社広畑製鉄所

今日は学会講演会の悪天候と異り全く快晴である。11時50分姫路駅に集合、総員80名、会社のバス2台に分乗して広畑製鉄所に向つた。途中夢前川の清流を渡り、富士製鉄従業員の方々の社宅の上に、非常に多く林立するテレビアンテナを眺め、さすがに最近の鉄鋼関係の好景気の状態を慶ばしく感じ乍ら、11時20分製鉄所に到着した。受付にてパンフレットを受け取り、会議室に集合直ちに昼食を戴いた。午後1時塩沢日本鉄鋼協会会長が香春所長始め、会社の方々に見学に際してお世話戴いたことに対し、感謝の辞を述べられた。その後香春所長が立たれ、広畑製鉄所の沿革、設備、およびその配置などについて説明を承つた。当製鉄所は敷地約90万坪あり、昭和12年3月日本製鉄株式会社の第4次拡張計画により広畑の地に建設が決められ、昭和14年10月、第1熔鋸炉1000tが火入れ式をおこない、それ以後厚板工場の建設などが完成した。終戦後昭和25年3月迄作業を休止したが、それ以後再開され、昭和29年頃よりさらに設備拡充が活発になり、薄板工場を完成、昭和30年には中板工場、亜鉛鍍金工場、昭和33年にはブリキ工場、広幅厚板工場、広幅薄板工場など完成今日に到つているとのことである。一方従業員も現在は10,000人に近い状態に達している。特にこの工場は港湾設備に力を入れ、1万t級、5千t級を10隻も接岸繫船することができる。将来はさらに水深を深め、4~5万級の船が接岸できるようにするとのことである。一方陸上輸送も完備しているが、これは港が表口ならば裏口といった処である。諸設備および能力など(第1表参照)について説明を聞き、全員を2班に分け、各班ごとに説明者が付き添い、バスにて見学に向つた。

最初岸壁にて港湾設備、すなわち鋳石、石炭の荷揚げ設備、運搬設備など、を見学、その完備している点などに感心した。続いて第2熔鋸炉に向つた。丁度出銹している処で、1000t炉から小川のように流れる熔銹を見て大きな熔鋸炉の威力に感心した。その後コーク炉、タール工場を自動車から眺め、平炉、造塊工場にて、150t炉よりの出鋼を見学した。丁度2時30分頃である。造塊工場では8t鋼塊が盛んに運搬されていた。続いて広幅厚板工場を階上見学道路より眺め、最大板巾3600mm最大板厚170mm迄のものが出来る。設備の立派さに感心した。続いて分塊工場にて鋼塊の分塊圧延を見学つぎに連続厚板工場を見てバスにて正門前に到り、午後3時30分見学にお世話になつた方々に挨拶を述べて帰路姫路駅に向つた。(早大鋳物研究所 草川隆次記)

第1表 広畑製鉄所主要設備一覧表

工場名	設備名	能力	数
製鉄工場	熔鋸炉	公称 1000t	2
コークス工場	日鉄複式コークス炉	2000t/日	3団
製鋼工場	傾注式塩基性平炉 貯溜式混銹炉	150t 700t	7基 1基
	酸素工場	500m <sup>3</sup> /h 3000m <sup>3</sup> /h 4500m <sup>3</sup> /h	各1基
分塊工場	分塊圧延機 均熱炉 連続鋼片圧延機	分塊年能力 1,320,000t	1式 8基 1式
	連続熱延工場		加熱炉 連続式熱間圧延機
広幅厚板工場	加熱炉 逆転式熱間圧延機 連続式酸洗機	年能力 720,000t 年能力 540,000t	1基 1式 2基
	冷延工場	逆転式冷間圧延機 連続式冷間圧延機 連続式亜鉛鍍金機 熱漬錫メッキ機 電気メッキ機	年能力 9,600t 年能力 480,000t 年能力 55,000t 年能力 96,000t

### 和歌山班

住友金属工業株式会社和歌山製造所

午前9時40分、南海電鉄和歌山市駅に集合した和歌山班一行約60名は、用意されたバスに乗り、市内および野菜畑の間を通ること約10分、住友金属和歌山製造所に到着。直ちに会議室に入つた。小田所長から、当製造所の特徴について話があり、高椋技術部長の工場概要の説明を聞いた後、見学に移つた。建設中のことでもあるので、当製造所の作業者と同様に鉄カブト、上衣、手袋を着用、2台のバスに分乗して、ストリップ工場→第1製管工場→第2製管工場→港湾施設→製鋼工場の順に案内していただいた。

当製造所は約100万坪の広大な敷地を有し、昭和17年4月に操業開始、終戦のため一時休止したが、昭和21年に再開、2800人の人員をようして今日に到つている。近年5カ年計画の実施に入り、1200t高炉を中心とした鉄鋼一貫操業を目指して着々と建設が進められ、さらに第2次計画すなわち熱延、冷延、転炉建設などを目標に躍進しつつあり、見学途中、各所においてその片鱗がうかがわれた。

2シートシステムの分塊設備は小倉製鉄所からの鋼塊を15000~16000t/月処理し(工事中のため外観のみ見学)ストリップ設備で巾80~400mmの帯鋼を12000t/月こなしている。この中の約4000tは、最大径4.5寸の電縫管に、残りの8割はパイプ材料として出している。

第1製管工場にあるマンネスマン設備は、本工場の特